## 【小学校·中学校·義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

速成度(評価) A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である

伊万里市立東陵学園 学校名 1 分かる授業の構築と確かな学力の向上(知)について→学力向上の成果指標はおおむね達成しているが、全国・県調査の結果を見ると、学力は十分定着していない。成果指標の見直しと指導方法の工夫・改善に取り組む。 →EdTechを活用した教育の情報化を推進の成果と課題を検証し、有効な活用方法について研修、具体的な実践につなげる。 2 豊かな心と健やかな体づくり(徳・体)について →昨年度の3校連携の校内研究の上に、系統的・教科横断的に人権・同和教育に取り組に児童・生徒の実践的態度を育む。 3 家庭・地域とつながり、地域を元気にする学校づくり→情報発信を積極的に行い、保護者や地域と協働し、開校した義務教育学校が児童生徒、保護者、地域にとって魅力ある学校をつくる。 前年度 ・将来の夢や希望を持つ児童・生徒の割合を高めるためにキャリア教育の年間計画を見直し、系統的・計画的に取り組むことで、自己実現に向けて主体的に取り組む児童生徒 評価結果の概要 の育成に努め ・業務改善、働き方改革は一定の改善が見られたが、依然として超過勤務時間が長い職員もいる。働き方改革チェックシートの活用や業務見直し等を推進し、全職員が超過勤 務時間45時間 以内となることをめざす。

2 学校教育目標 心やさしく(徳) 志高く(目的・目標) ともに学ぶ(知) 児童生徒の育成 ー 東陵学園型9年教育の推進 ー たくましく (体)

重点取組内容・成果	指標			中間評価	<u> </u>	5 最終	評価		
通評価項目									
	重点取組		目体的取织		中間評価		最終評価		学校関係者評価
評価項目	取組内容	成果指標 (數值目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・分かる授業の構築と確かな学力の向 上(知)	○主体的に学びに向かう思想生徒を育成するために、学びらい際に自分の時に自分のおよそもて友谊 に考えを伝えている」と回答した児童生徒の前合 を80%以上にする。 ○基礎的・基本的な問題「評価デスト・TOFAS) の正答率を80%以上にする。(前期)	⑦ICTな活田! た学だ会!/学型を取け入れ	В	OEが上いの機能的な活用のため、教師の学びの場と していて研修を設せた。 の学び会いを取り入れながら授業つくりを行っているの で、その際につびき活用できるようにしていく。 OTOFAS等の基礎学力検査を行い、児童生徒の学習 について保証者を共進運搬した。親の時間にスキル タイムを設定し、基礎学力強化の時間とした。夏季休業 中のタブルン特殊スの特を掲げていく。				
		○図書室を選2回以上利用した児童を70%以上 にする。(前期) ○児童生徒会と連携して、図書館祭りを年1回 ○別章生徒の本の賞し出し冊数を超えた生徒を7 ○%以上にする。(後期)	④学校図書館を利用した読書活動の充実	В	○選2回以上図書室を利用した前期課程の児童は6 0%につた。今後も機能して利用を容免していく、図書 の単立、生後の活動でようの手能に合わせていく、図書 は一般では、1000円でありません。 行ったことで書記は図書室利用しない児童も参加でき 行ったことで書記は図書室利用しない児童も参加でき 内容を工夫していく。 公後期課日の生徒においてもの児童・生徒が利用するよう の後期課日の生徒において、毎年度の同時期に比べ 本の貸出機数は減少した。今後、教料との連携を図り 成善を目前す。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 戦や正義感、最勤する心など、豊かな 心を身に付ける教育活動 ・豊かな心(徳)	○道徳の教科書の活用を基本とし、年間指 事計画をもどに、児童生徒の実情に合わせ て適宜見慮しながら挟きを実践できたと声 足的な回答をする教員の割合が90%以 しり児童生徒の発達段階にむて、教材(資 料)の選定やローテーンコン授業の実施、 資料の地元の仕方など工夫して、重点項目 の挟業を100%行う。	②児童生徒の発達段階に応じた授業の充	В	○「児童生株の実情に合わせて重宜見重しながら授業 を実施できた」と肯定的な回答をする教員の副合か78% だった。 の教科書に加えて、新聞記事や10Tなどを活用し、児童 生徒の興味や認趣意識を高める。さらに授業後の無り 返りを教食間で共有し、教材選定や指導改善に活か す。 の重点項目を再度確認する機会を設け、月までの授 会内容の単元を持たしている。大学可能の項目の				•
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	しいじめ防止に向けて「組織的対応ができている」と回答する教員の割合が90%以上 の生態へのアンケートにおいて、「いじかか 困ったことがあったときにすぐに相談に乗っ でもらえる」と答える生徒の割合が90%以 上	②定期的なアンケート調査 ③相談体制の充実	В	接着を行うたう、建設プリンとを配点して登場して代える。 り生活金数や好象中など、複数の目で現金・生を見 ることによって、問題への対応がスムーズに行えた。 位定策制ななアンケー制器を実施したことにより、確実 に光度・対応(100%)を行い、問題を抱えた児童・生 徒に対して問題解決・と繋げることができた。 ③教育相談使りの配付やアンケートの実施により、 最に応じて現金・生徒や保護者、教職員をスタールカウンセラーに繋げた。 (8月末にスクールカウンセラーと)・シャルワーカー を講師に扱いて変数値の研修を行う。数官有謎の手法 デマリ、学級の実施に合わせたり、数官有謎の手法 デマリ、学級の実施に合わせたり、数官有謎の手法 デマリ、学級の実施に合わせたり、数官有謎の手法				
	現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒8 0%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	③文化発表会での後期課程生徒代表の体 職務表の実施。全児音生徒は 活動の目	В	い。 (分析間づくりと観測り活動として、Rタイムやなかよしタイムを計画・実施している。 イムを計画・実施している。 江事教室・承道教室・人思沙寺理環など、各種体験活動 の実施に向けて計画を進めている。 33 実験学園部のフェル条券をとして、9字年全員が展 ボやステーンで自己等のフェル条券をとして、9字年全員が展 ボやステーンで自己を終ました。 (名キャリア能力プラン系級表の作成に向けて準備中で ある。		•		•
	〇人権・同和教育の充実及び人権感覚 の高揚	〇学級や学校での取組や人権・同和教育の授業を通して、人権意識が高まったと回答する児童・生徒の割合が80%以上。	○人権・同和教育の視点に沿った教材、部 落史学習等、人権学習の各学年適宜実 施。正しい知識や人権密質の涵養。 ○相互類体の良好な人間観傷づくりのため にRタイムを年間5回程度、実施。 ○人権教室や人権集会の実施。	В	・人権意識が高まったと回答した児童・生徒は78%で あった。今後も、人権学者で都原史学習等を計画的に 行っていく。 ・49メムも7月に第1回目を行い、今後も計画的に実施 予定である。 ・人権事業は各ステージ集会において、各学年の実施 に含わせて使期に実施する。		•		
●健康・体つくり	●「連動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒7 0%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	●委員会活動を通した外遊びの奨励。 外遊びの紹介。 参栄養教諭による食育指導を計画・実施。 ○朝ごはんチェック週間の設定・実施。	В	・酷暑のため、外遊びを奨励することはできなかった。 外の環境を考え、後期に本格的に実施する。 総教会員会の契約者で、結束のたかわりエック選 間を投資に、実施した。残業が第った。 本業最適能となる責指導を10月に計画し、あわせて 都ごはんチェック週間も設定している。				
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	● 業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を連守するよう、効率的 な業務に努めた職員70%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1 人当たりの年次休暇の時日数14日 以上	○会議や研修の時間設定と運用の工夫・改善。 ○一番き方改革チェックシート」等を活用した 実態把握と業務改善を推進。	В	・職員全体でみると、教育委員会規則に掲げる時間外 在校等時間の上限を通守することができた職員は前期 において50かった。また、年次休職取得日数は、 平均6、7日であり、振調に進めば14日以上に達すると 見われる。一方、職員信任であると、在校等時間の長さ や年次休報取得日数には個人差がある。今後、働き方 改革チェックン・や業務な善委員会を行い、業務効 率化や平準化を促していく。				
●特別支援教育の充実	〇個に応じた適切な支援の実施 〇特別支援教育に関する教員の専門性 と意識の向上	○支援が必要な児童生徒について、実 態に応じた個別の教育支援計画や個別 の指導計画を1009作成する。 日本の主物を1009作成する。 対った指導を4行うことができた」という数 員の割合を80%以上にする。 ○職員アンケード(存度当初と比べ特別 支援教育に関する専門性が向上したと 思う」の割合を80%に対してと	育の教育ソフトを使い、実態に応じた個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成。 〇計画に応じた教材を活用して適切な	В	・特別支援学級在籍や連載指導院当児童生徒については、教育ソアドレロスは2017実施に成立に指導的の数を規模をは、サービリスを担じまた。1973年 1973年 197		•		
本年度重点的に取り組む数	   数字	心ノ」が可口でのU70にする。	〇年1月120回い講師で指摘した明修の						
	重点取組		B 11.11 To 10.		中間評価		最終評価		学校関係者評価
評価項目	重点取租内容	成果指標(影響日標)	具体的取組	進捗度	進捗状況と見通し	達成度	実施結果	評価	意見や提言
〇開かれた学校づくり		(教権目標) (学校は、ホームページや連絡アプリを 活用して「開かれた学校づくり」に取り組 パでいると答えた保護者70%以上 (2学校運営協議会は、地域との連携を 進めていると答えた保護者70%以上 (3)FTA常任委員会、家庭生活委員会)に よる校外における生活ルールを夏季休 業までに作成する。	活用 ②コミュニティ・スクールを核とした学校 と地域の連携・協働 ③家庭と連携した基本的な生活習慣の	B	①保護者アンケートでは肯定的な回答が74.5%であった。学校だよりやアンケートの発信、ホームページ、シグフィーでの処間によい評価をいただいている。 2保護者アンケートでは、69.2%であった。後期で、中央返営協議会だよりを配信、活動を広めたり、受員の方が不足感を膨くるようにしていきたい。 3家庭生活のルールは、FTA家庭主活委員会において検討の最中である。委員長中心に作成中である。	(評価)	•		•